

「五神」

日本の平城京(奈良)、平安京(京都)の街づくりは、唐の都「長安」や北魏の「洛陽」を模して建造されたのは広く知られるところです。

これらの都は、東西南北に基盤の目の様に大きな通りがあり、都の中心に皇帝(天皇)の住まわれる中宮があります。中国の都の場合、周辺を高い城壁で囲い、東に青龍、南に朱雀、西に白虎、北に玄武の門があり、城内外の出入口となっています。

この4つの門に祭ってある青龍(東)、朱雀(南)白虎(西)玄武(北)を四神と言い、中宮の座には麒麟、または黄龍(いずれも架空の動物)が祭られています。

これら四神に加え、五行説では麒麟または黄龍を入れて「五神」と言われています。

ちなみに四神にちなんだ物事としては、会津藩が武家男子を中心に年齢別に50歳以上の玄武隊、36歳から49歳までの青龍隊、18歳から35歳までの朱雀隊、17歳以下の白虎隊と四神の名を部隊名とし構成していました。

戊辰戦争で非業の最期をとげた白虎隊はこの会津藩の17歳以下の少年武士の隊だったのです。

太陽が東から昇り、南中し西に没み、夜となって、また夜が明ける一日の変わらぬ動きに合わせ、また、春夏秋冬の四季の変化に対応させて、若年期を「青春」壮年期を「朱夏」熟年期を「白秋」老年期を「玄冬」と表現する事もあります。

一昨年仙台市の東に位置する長町診療所のオープンに際し、150号大の「龍」の絵を、また昨年仙台市の西側に位置する青葉西診療所のオープン時に同じく150号大の「虎」の絵を飾らせて頂きました。

これらの絵は私が公私共に親しくさせて頂いている、深谷隆司先生より揮毫頂きました。

そして今年、徳真会グループ創業の地、新潟県旧新津市にある本院新館に300号大の「黄龍」の絵を揮毫頂きました。深谷先生が渾身の力で揮毫されたこの「黄龍」の絵を徳真会創業の地の新津診療所に、そして長町診療所の「龍」、青葉西診療所の「虎」、加えて来年開院予定の福岡市春日診療所に「朱雀」の絵を徳真会グループの「五神」の中の四神として飾らせて頂いております。

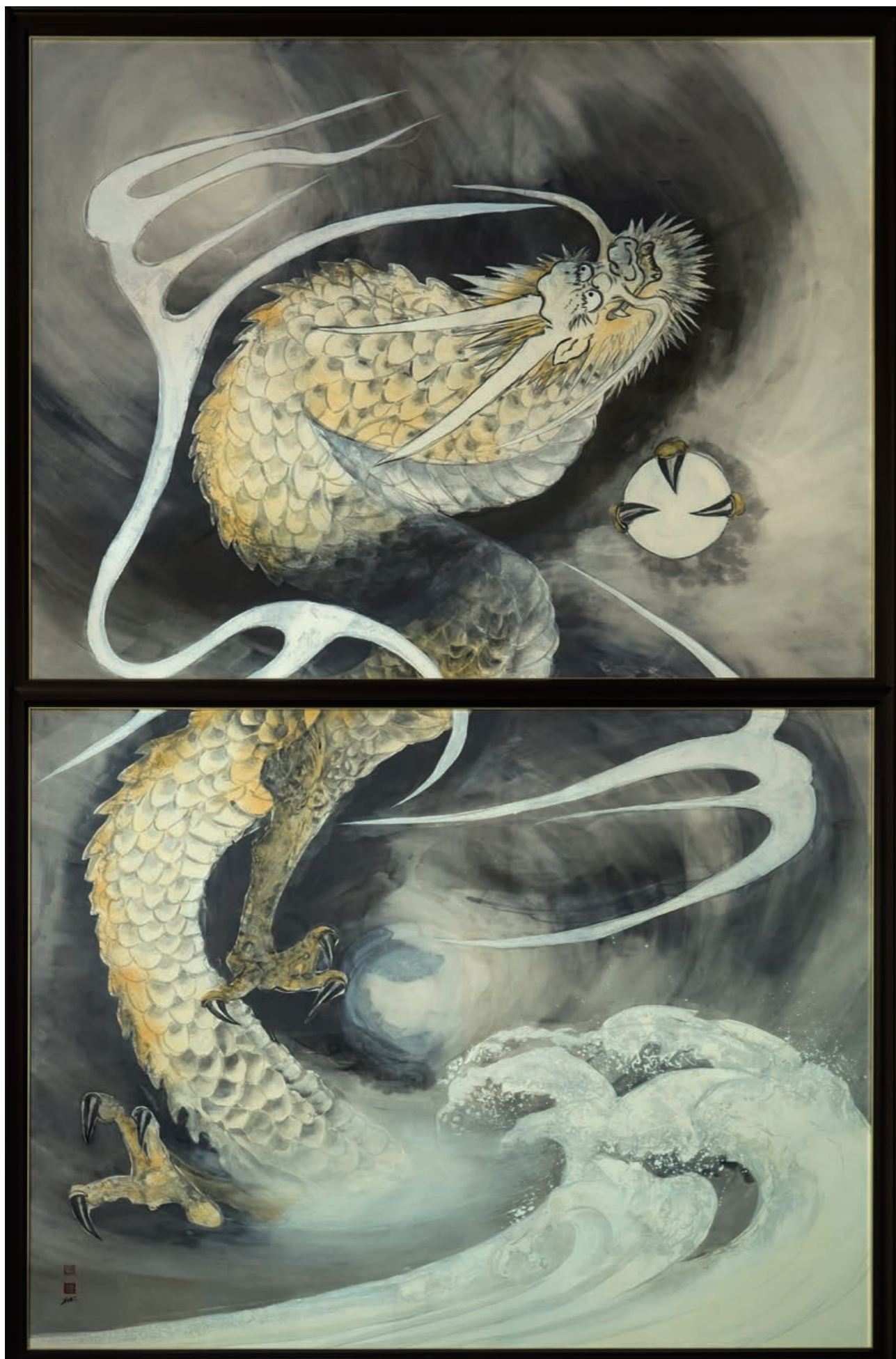
徳真会グループ
代表 松村 博史



深谷 隆司 先生
元通産大臣 / 自民党東京都連最高顧問

1935年9月29日浅草生まれ 自民党東京都連最高顧問。TOKYO 自民党政経塾長。温故知新塾塾長。27歳で台東区議会議員に当選。33歳 都議会議員を経て、37歳で衆議院議員となる。当選9回。郵政大臣(第52代)、自治大臣(第47代)、国家公安委員会委員長(第57代)、通産産業大臣(第64代・65代)、自由民主党総務会長(第39代)、予算委員長、テロ対策特別委員長を歴任。

徳真会グループが毎月主催する「温故知新塾」でグループ内外の塾生に向けて、御講義頂いております。今年9月、昨年の「温故知新塾」の講義の「本当はすごい日本人」が冬舎から出版され全国の書店で好評発売中です。日本の古代から近代までの本当の歴史を知る上いづれも大変貴重な本として高い評価を頂いております。深谷先生は趣味も多才で、書、画、タップダンス等々いづれもプロはだしの才能を持たれており、これらの絵の揮毫をお願い致しました。



撮影場所：まつむら歯科 新津診療所 (黄龍：深谷隆司先生作)